

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2013.02.No186

2月号

目次

ブロック会結成に向けた準備会開催される	1
平成24年度 高校生建築デザインコンクール入選作品発表	2
道士会の動き	5
青年・女性の窓	6
[No.58 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会]	
支部だより	7
[空知・紋別・遠軽]	
information	8

URL <http://www.h-ab.com/>

支部間交流の活性化に向けて ブロック会結成に向けた準備会開催される

昨年、9月下旬から11月上旬にかけて、青年委員会ブロック協議会と同じ地域割りで、道央・道南・道北・道東の4つのブロックで、一般社団法人の活性化施策としてブロック会の結成に向けての準備会が開催されました。共通議題として①全道大会の開催②建築技術講習会開催地の選出③会員増強④応急危険度判定業務⑤支部運営の課題等が各々話し合われました。ここに、その内容の一部を報告しますので、皆様の議論の俎上に載せていただきたい。

〈全道大会の開催〉

平成26年から28年開催支部の方向が見えました。本年は恵庭支部（道央）、平成26年旭川支部（道北）、平成27年紋別・遠軽支部（道東）の協同、平成28年室蘭支部（道南）で開催する様に持ち帰り支部でそれぞれ検討する。その他、財政状況から隔年開催を検討すべき。また、支部単独開催は難しいのでブロック会の支部が協力して開催するとの意見もある。

〈建築技術講習会の開催〉

講習会の開催は、3～4支部が単独及び協同開催を考えている。従来の寒地建築技術講習会は、その役割が終焉した。CO₂削減対応策、LED、エコキュート等の新技術や、テキストが実務で活用出来るものが求められている。また、受講料の軽減も検討課題である。支部事業とするかは、今後の内容を検討してからの判断となる。

〈会員増強〉

何物にも増して若手建築士が減少し、高齢建築士のみとなって居り、その会員を引き止めて維持するのが精一杯である。イベント等を開催し、若手建築士を積極的に誘うことが大事。魅力ある活動をどう創り上げ、発信するかがカギとなる。青年委員会・部へ一部事業を移し、活性化の機会とし地域に埋もれている若手建築士を探し出し加入を促す。また、会員増強の在り方や各支部の存続を含めて真摯に検討する必要が有るなどの意見がある。

〈応急危険度判定業務〉

北海道連絡協議会に基づき協力するのに異議は無いが、派遣体制を構築するのは時間を要する。会員が所属する会社等によっては、対応が困難な状況が予測される。判定士資格者を把握していない支部もあるし、会員以外の判定士情報も必要である。判定業務について、地元自治体と協定している支部もあるが一部であり、今後それぞれの自治体と十分協議して進める必要がある。基金の創設は、資金の運用と管理等の検討が必要で、基金は建築士会の内部に設置しないことが望ましい。

〈支部運営の課題〉

事務処理負担増を本部との連携により負担減及び支部事務員の経費検討が必要である。支部活動には市町村職員の支援が不可欠である。景気の低迷で活動費等を生み出しているビールパーティ等の開催が困難となっている。会費に対する支部交付金の比率（40%）が低いのではないかな。

〈その他〉

建築士会の原点は建築士法にあり、法の遵守の周知徹底が重要課題である。従来道東は3つの地域毎に連携して来た。ブロック会の位置付け、意見・要望が本部で議論されるのであれば一本化に賛成する。ブロック会の会議に本部役員の出席を要望する。

4ブロックの準備会に33支部の代表が集合し、支部運営の厳しさを浮かび挙げさせました。これを支部だけの問題とせず、ブロック会の共通問題として衆知を集めて解決を図って行く必要があります。20数年の実績がある青年委員会ブロック協議会との連携も視野に入れつつ、支部間交流と協力体制を創り上げダイナミックな活動を目指したいものです。一支部では不可能でも数支部が集まることにより可能となる事が多くあります。そこに建築士会の新しいメリットが開花することと思います。4ブロック会の早期の発足・活動を望みます。

平成24年度 高校生建築デザインコンクール入選作品発表

「高校生デザインコンクール」は、道民に愛され親しまれる公共建築物づくりを進めるため平成8年度より実施しております。このコンクールは、次世代を担う建築技術者となる全道の工業高等学校（建築系学科）に在籍する生徒から、ユニークかつ夢のあるアイデアを募集するものです。さらに平成12年度より4団体（北海道、(社)日本建築家協会北海道支部、(一社)北海道建築士事務所協会、(一社)北海道建築士会）の共催事業となっております。

今回の課題は札幌市内の真駒内公園内に整備される1800㎡程度の「小体育館」で設計募集したところ、6校56作品の応募がありました。審査にあたっては、

- ・ 高校生らしい若々しさと創造性にあふれているか。
- ・ 設計のコンセプトやデザインに魅力があるか。
- ・ 立地条件を活かしているか。
- ・ ユニバーサルデザインや環境などに配慮されたデザインであるか。

と言った観点から審査を重ねた結果、最優秀作品1作品、優秀作品3作品、佳作4作品、特別賞2作品を選定いたしました。

審査にあたりましては、選定委員として初めて参加させて頂き、高校生のレベルの高さに非常に驚き、刺激を受けてまいりました。今回応募頂きました皆様の今後の活躍を期待しております。

(一社)北海道建築士会まちづくり委員会 滝田 祐人

最優秀
作品賞

Harmony with nature ～自然との調和～

北海道苫小牧工業高等学校
新谷 郁人 (3年)
東 純也 (3年)
小林 拓夢 (3年)

□設計趣旨

自然環境との調和を目指し自然エネルギーを活用しました。開口部を広く設け、光あふれる空間にしました。また、半地下構造とし、地下熱を利用することで、空調負荷を低減できると共に、最高高さを抑えることで、自然にとけこむように工夫しています。体育館の屋根を球体にしたことにより積雪にも配慮し自然にも優しいバリアフリーの体育館として計画しました。この施設を利用する人だけでなく、色々な年齢の人たちに利用してほしいと願っています。

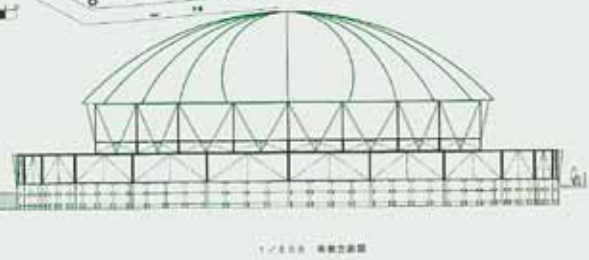
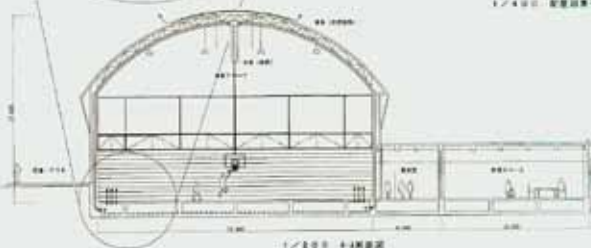
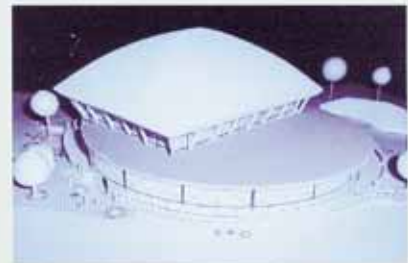
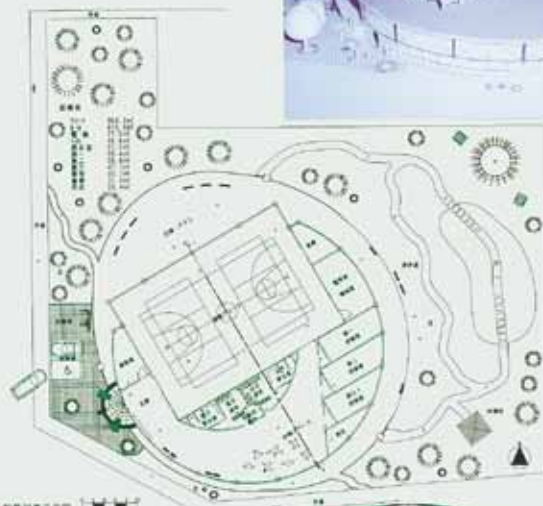
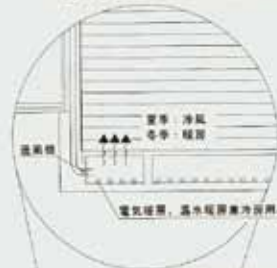
□審査講評

体育館としての空間や表現が適切でゾーニングが明快である。
また、近接する真駒内競技場とも調和のとれた外観としながら、半地下にすることで地上高を抑え周辺住宅への圧迫感にも配慮しており、内・外部共にバランスの取れた作品である。
デザイン、コンセプトとも秀逸な作品であり、特に高く評価されました。

Harmony with nature ～自然との調和～

～設計主旨～

自然環境との調和を目指し、自然エネルギーを活用しました。開口部を広く設け、光あふれる空間にしました。また、半地下構造とし、地下熱を利用することで、空調負荷を低減できると共に、最高高さを抑えることで自然にとけこむように工夫しています。体育館の屋根を球体にしたことにより積雪にも配慮し自然にも、人にも優しいバリアフリーの体育館として計画しました。この施設を利用する人だけでなく、色々な年齢の人たちに利用してほしいと願っています。



優秀 作品賞

北海道小樽工業高等学校
秋山 愛斗 (3年)
山崎 涼 (3年)
久米田和義 (3年)

SHINE ~輝と憩いの空間~

□設計趣旨

設計コンセプトは美しい自然と人工物との調和としました。外観は白を基調としたこて波形の仕上げにし、柱と梁を露出させシンプルで個性的なモダンズ建築風に仕上げました。内観は吹き抜けによって通気性が良く開放的な憩いの空間となっています。設備面では管理棟の屋根にソーラーパネルを設置し、札幌市に適した発電量の多い35度の勾配にしました。また、ガラスカーテンウォールからは暖かな陽が差し込み、研修室・体育館もハイサイドライトによって適度に明るくなるよう設計しました。使用者の動線にも気を配り、幅広いニーズにも応えられ多様性のある、使いやすい間取りとなっています。

□審査講評

コンパクトで平面計画も良く練られており、屋根にソーラーパネルを効果的に設置するなど表現力、デザイン力が豊かな優れた作品として高く評価されました。



優秀 作品賞

北海道札幌工業高等学校
本間 悠太 (2年)
植木 亮輔 (2年)
榮田 民人 (2年)

Snow Crystal Arena ~北の輝き~

□設計趣旨

以前は札幌オリンピックの開催地として世界のトップアスリート達がこの真駒内公園で競い合いました。そこは今や市民の慣れ親しんだ憩いの公園として生まれ変わり、私たちの生活に潤いを与えてくれる場所としてあり続けています。

そんなところにふさわしい建物として、雪の結晶をテーマに据えてデザインしました。木々の生い茂る公園の中に佇む青色を基調とした涼しげなカラーは涼しげな気持ちにさせてくれ、冬には一面を覆う雪のシンボルとして北海道札幌の冬を象徴する建物となっています。内・外観は木を基調としており、温かみある作りとなっています。

□審査講評

雪の結晶をモチーフに平面やソーラーパネルを六角形でまとめているデザインは斬新であり、コンセプトや表現力が高く評価されました。



優秀 作品賞

北海道函館工業高等学校
谷口 遥香 (3年)

RIVER and TREE

□設計趣旨

外観のデザインは真駒内公園の特徴を盛り込んでいます。公園の中心を横切る真駒内川をイメージした波状の大窓は今まで閉鎖的に思えた公共体育館の存在を一変し開放的な雰囲気をもたらしています。西部に流れる豊平川は屋根で表現し、躍動感を感じさせる形態としました。更に木材を立ち並べせることにより公園内の豊富な樹木の表現をしています。内部は休憩スペースを大窓面に配置し、外から見た人に親近感を与え、また波状の形が仕切りの役目を果たし機能面について優れています。現代の職人技の表出に期待し、そして実現されたら真駒内公園は更に人から愛され親しまれる公園となることでしょう。

□審査講評

公園内の川や樹木、周辺の川など身近な自然が開口部、伸び上がる屋根と豊かな感性で力強く表現されており、若々しさを感じる個性的なデザインが高く評価されました。



佳作 北海道札幌工業高等学校
石垣 祐貴 (3年)
藤原 翔平 (3年)
大柳 朋裕 (3年)

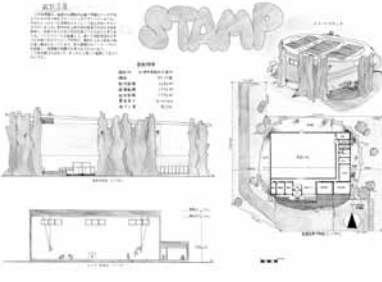


COSMOS

□設計趣旨
この建物は真駒内公園内にある南区の区の花である「コスモス」をイメージしました。建物の平面はコスモスの花弁が8枚であることから8角形としています。また、建物外の柱は白く塗り、枝分かれの様な形にすることにより区の木である白樺の林を連想させます。管内はバリアフリーにすることで、車いす利用者や高齢者でも安心して施設を利用することができます。スポーツはもちろん、サークルや研修の会場として使用できるので様々な人が集まります。この建物を訪れた人々がスポーツや集会を通して触れ合う、地域の交流の場となって欲しいです。

□審査講評
コスモスをモチーフに複雑な平面形状をうまくまとめ上げており、屋根の形状など外観の姿が表現豊かで美しく存在感がある芸術性の高い作品である。

佳作 北海道函館工業高等学校
木津谷修平 (3年)

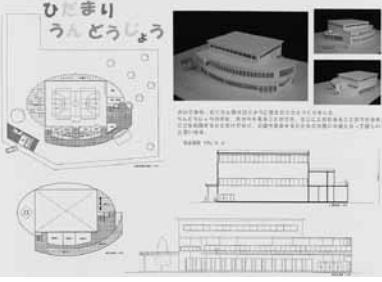


STAMP

□設計趣旨
この体育館は緑豊かな真駒内公園の景観にマッチするように木の切り株をモチーフとしたデザインにしました。中はひとつひとつの空間を大きく取って誰もが使いやすいようにしました。室内の仕上げ材には北海道でとれた木材を使用し、利用する人たちに自然を感じてもらおうと考えました。バリアフリーにも配慮して、車いす用駐車場からすぐに玄関へ向かうスロープが伸び、館内にはいると段差の殆ど無い構造になっています。更に屋根にはソーラーパネルを設置し、体育館で消費する電力をまかないます。この体育館「STAMP」で、多くの人に楽しく運動してもらいたいです。

□審査講評
切り株をモチーフとした外観はユニークでありながら、公園と調和のとれた落ち着いたデザインとなっており、創造性の高い作品である。

佳作 北海道苫小牧工業高等学校
久保菜々実 (3年)
久保木小春 (3年)

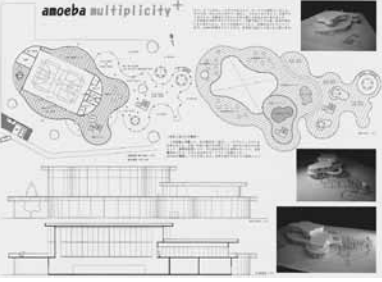


ひだまりうんどうじょう

□設計趣旨
おひさまが、たくさん降り注ぐように窓をたくさんつくりました。うんどうじょうの中を、外からも見ることができ、そこに人がたまることができます。ここを利用するひただけでなく、公園や散歩するひとなどの憩いの場となって欲しいと思います。

□審査講評
平面計画がコンパクトで機能的であり、曲面を用いるなど快適な環境の内部空間を創り出した作品である。

佳作 北海道苫小牧工業高等学校
山崎千沙都 (3年)
渡辺 未紀 (3年)



amoeba multiplicity+

□設計趣旨
「ひと」が「たまる」ことができるように、オープンな空間としました。外から内、内から外に向けて一体化し、つながりもてるよう、外部テラスをつくり、内部をいたるところから感じられるように考えました。この施設を利用するひとでなく、公園で遊ぶ子ども達、散歩の途中で立ち寄る人など、ひとつの用途だけでなく、地域のひとたちでつくりあげamoebaが増えていくように、他用途に広がってほしいと思います。

□審査講評
敷地全体が「ひと」が「たまる」というコンセプトどおりの空間となっており、親近感、開放感とともに豊かな感性を感じる作品である。

特別賞 北海道苫小牧工業高等学校
田中 響 (3年)
種田 俊己 (3年)
山口 朗人 (3年)

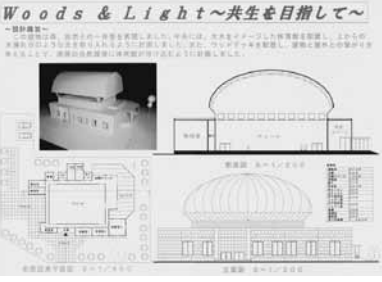


Nature's Paradise

□設計趣旨
今回この建築物を設計するにあたって私たちがテーマとしたのは「自然との調和」です。真駒内公園は緑豊かな公園で自然にふれあえる市民の憩いの場です。この公園の景観を崩さず、ユニークな建物を設計しようというアイデアを出し合い、話し合った結果…「切り株」をモチーフにして計画しました。なぜ切り株をモチーフにしたか…「切り株にすわり休む人」をイメージ休憩の場としても活用出来る場。そして公園内の自然豊かな景観を崩さないよう外観を切り株にし外部仕上げも木目にし、「自然との調和」を演出しました。屋上は自然あふれる公園内を一望できる展望台にし自然を感じられるよう工夫し設計しました。

□審査講評
テーマとした「自然との調和」を明快かつ大胆な発想で力強く表現しており、高校生らしい独創的な作品である。

特別賞 北海道苫小牧工業高等学校
坊坂 直紀 (3年)
灰野 智哉 (3年)
吉田 翔弥 (3年)



**Woods & Light
~共生を目指して~**

□設計趣旨
この建物は森、自然との一体感を表現しました。中央には、大木をイメージした体育館を配置し、上からの木漏れ日のような光を取り入れるように計画しました。また、ウッドデッキを配置し、建物と屋外との繋がりを考えることで、周囲の自然環境に体育館が溶け込むように計画しました。

□審査講評
外部空間との一体感を意識した東に拡がるテラスは気持ちが良い。また、空にふくらむドームがユニークで個性的な作品である。

平成24年度 (社)北海道建築士会通常総会報告

日時：平成24年12月14日(金) 16時00分～17時00分
 会場：ホテルポールスター札幌(札幌市中央区北4条西6丁目)
 出席会員数：2,221名(内委任状 2,123名)
 (正会員総数 4,390名、総会の定足数 2,196名)

議 事

午後4時00分、定款第16条に基づく総会として、定款第19条により会長が召集し、出席者が定款第21条に定める定足数に達しているとの旨報告の上、平成24年度通常総会の開催を宣した。次いで、定款第20条の規定に基づき内海純一氏(札幌支部)が議長となり、各議案について提案及び説明があり、逐次審議を行った結果、いずれも原案どおり可決された。

議 案

[議案第1号]平成25年度一般会計事業計画及び収支予算(案)
 [議案第2号]平成23年度特別会計事業計画及び収支予算(案)

◆平成25年度一般会計及び特別会計事業計画

平成25年度基本方針

- 「分かりやすい建築士像の構築」
- 「建築士の社会的な信頼の再構築」
- 「信頼(社会ニーズ)に応える技術の向上」
- 「建築士の会員増強と組織の強化」
- 「環境との共生」

をふまえ、委員会所管事項と事務局所管事項について、平成25年度より新設された「被災地応急支援特別委員会」の新規事業を含め、新規及び継続の事業計画が説明された。

◆平成25年度一般会計収支予算

平成25年度は、定期講習会受講者数の減、会員数の減等に伴い、若干の減額はあったものの、全体としては平成24年度とほぼ同様の収支予算となった。

また、一般社団法人への移行認可申請に基づく、公益目的支出計画の実施期間であるため、会計区分を「公益目的実施事業」「その他の事業会計」「法人会計」と大きく3つに区分する下記収支予算の様式へと変更になった。

一般会計収支予算(新様式)

平成25年1月1日～12月31日

(単位：円)

科 目	実施事業 会 計	その他事業 会 計	法人会計	合 計
I 一般正味財産増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費			71,048,800	71,048,800
事業収益	15,636,110	11,169,890		26,806,000
受取補助金等	5,835,000	18,449,500		24,284,500
受取負担金	600,000		1,072,000	1,672,000
雑収益		23,209,288	104,282	23,313,570
経常収益 計	22,071,110	52,828,678	72,225,082	147,124,870
(2) 経常費用				
事業費	37,789,590	73,336,100		111,125,690
管理費			35,755,180	35,755,180
経常費用 計	37,789,590	73,336,100	35,755,180	146,880,870
当期経常増減額	△18,233,600	△17,992,302	36,469,902	244,000
正味財産期末残高	△18,233,600	△17,992,302	36,469,902	244,000

平成24年度建築士試験合格者発表

北海道の合格者数

- 〈一級建築士〉 82名
受験者数1,148名・合格率 7.1%
 - 〈二級建築士〉 167名
受験者数1,136名・合格率14.7%
 - 〈木造建築士〉 2名
受験者数 12名・合格率16.7%
- ※受験者数=学科からの受験者+製図のみの受験者

2012高校生の「建築甲子園」審査結果

奨励賞 北海道札幌工業高等学校

「建築甲子園」の審査結果が発表になりました。38道府県から38点の応募があり、北海道の代表校「北海道札幌工業高等学校」の“北の快適住まい”は、みごと奨励賞を受賞しました。審査総評等は、(公社)日本建築士会連合会のホームページをご覧ください。

道本部の主な会議報告

◆平成25年度 第1回理事会

《開催日時》1月16日(水) 15:00～16:30

《議 題》※議題については、すべて承認済

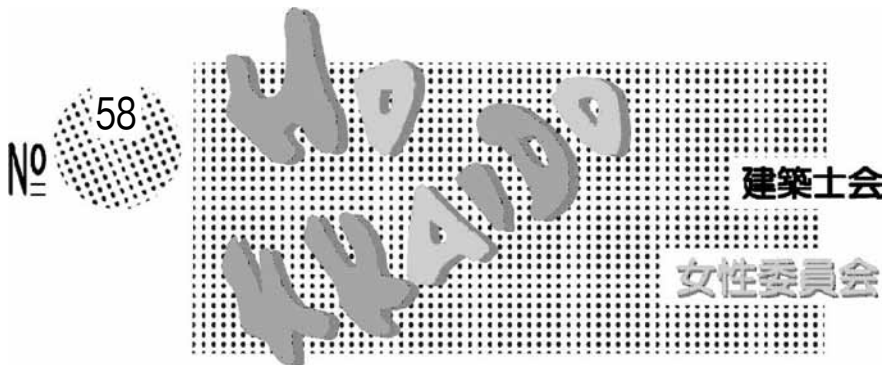
- 1) 平成25年度統括理事及び常務理事の任命(案)について
- 2) 平成25年度理事業務分担執行(案)について
- 3) 定款第6条に基づく会員の入会承認(案)について

道本部の主な行事予定

- ◆第1回情報委員会 2月2日(土)
- ◆第1回まちづくり委員会 2月2日(土)
- ◆第1回被災地応急支援特別委員会 2月16日(土)
- ◆第1回総務委員会 2月16日(土)
- ◆第1回青年委員会 2月23日(土)

関係機関等会議出席状況

- ◆建築CPD運営会議
《開催日》2月26日(火) (東京)高野会長出席
- ◆建築士試験・建築士定期講習業務連絡会議
《開催日》2月12日(火) (東京)鈴木事務局長出席
- ◆全国建築士会事務局会議
《開催日》2月13日(水) (東京)鈴木事務局長出席



「創ってみよう
未来のあさひかわ」
～まちづくりワークショップ～

旭川支部 齊藤 裕美

『第11回 たきかわ 紙袋
ランタンフェスティバル』

滝川支部 神部 絢子

余り広く知られてはいないイベントのお話をいたします。

平成25年2月16日滝川市において「第11回たきかわ 紙袋ランタンフェスティバル」が開催されます。



身近にある紙袋にデザインを施し雪を詰め、ローソクを仕込んだランタンを街区に飾り楽しむお祭りです。その始まりは、平成15年になります。“アメリカの砂漠に、紙袋に砂を詰め、キャンドルを灯したランタンが、人々をホテルへと誘導する幻想的な風景がありますよ”との話がきっかけでした。滝川に砂漠はありませんが、冬にはあり余る雪があります。砂の代わりに雪を詰め袋にデザインをしよう！会場は、当時シャッター通りに変貌しつつあった街中を元気づけたいと、駅から続く中心商店街に決定。商店街と建築士会女性部会の協賛金でアートチャレンジ滝川と女性部会が中心となり、青年部会の協力の下、第1回の開催へと漕ぎ着けました。火を灯し僅か3時間の命を吹き込まれる主役のランタン達は、幼児から高齢者まで市内の諸団体の皆さんが制作します。

第1回の1,500個から昨年の第10回には10,000個と年々その数は増えています。第9回からは市民有志が実行委員会を組織し、運営する市民主導のイベントとなりました。



シンプルな材料に、みんなの思いをこめてデザインした、同じものは2つとないたったひとつのランタンたち。その柔らかな光に照らされた街区は幻想的で、厳しい冬を過す私達の心を温かく包み込み、豊かにしてくれます。イベントに先立ち1週間前よりプロ作家による作品を店舗のショーウィンドウに飾ります。とても見ごたえがあり、イベントへの期待と夢が広がります。



ランタン達の織り成す美しい風景と‘かまくらバー’のホットワイン・飲食ブースの滝川の美味しいものたちが皆様のお越しをお待ちしております。ホッと温もりませんか。

<http://lantern-takikawa.jp>

秋も深まった10月の土曜日、旭川市科学館・サイパルの木工室にて旭川工業高校建築科の生徒さんを対象とした「街づくりワークショップ」を行いました。工業高校の建築科を卒業しても建設業界に就職する生徒が少ないという話しを聞き、一人でも多く将来建築士を目指して欲しい、また、自分が住んでいる街に関心をもってほしい、という願いから、今回のワークショップを企画しました。工業高校の先生にこの企画のお話をしたのが7月だったでしょうか。学校行事とのかねあいもあり、実行日のお知らせを頂いた時は本当に嬉しかったのを覚えています。

当日は1年生から3年生までの計16名の生徒が参加。ワークショップを始める前に、まずは我々スタッフの自己紹介を兼ねて現在自分が勤めている仕事の内容や、建築士になるまでの話しなどをして頂きました。その後、3グループに分かれて旭川駅周辺の現状や将来の希望、理想を話しあい、テーマを決めて、おもちゃのブロックを使い未来の旭川駅周辺の建物を作ってもらいました。作業時間が少し足りなかった様ですが、集客施設のシンボルタワーやライブ会場、家族で寛げる施設など、色彩にも凝った素晴らしい作品が駅周辺に立ち並びました。

アンケートでは、建築士と交流できる企画を今後もやってほしいという要望が多く、来年も引き続きやっていきたいと思っております。



空知支部 芦別分会 地産地消

事務局員
相澤 芳樹



芦別市では、住宅建設には従来不向きとされたカラマツ材を使った市営住宅を建設しています。

市有林のカラマツを芦別森林組合が切り出し、芦別林産協同組合が製材、地元の新住宅システム開発協同組合が製材乾燥、地元の工務店が建築施工するといった、森林資源の地産地消に知恵を結集した「オール芦別の家づくり」で芦別市の豊富な資源を活用しています。

カラマツは成長が早く、硬く強いことから炭鉦全盛期に坑木として使われ芦別市の山林でも多く植林されました。伐採の適齢期を迎えたカラマツを使用するにあたって、原木はトドマツと比較しても安価なのですが、建築材に使える歩留りは半分程度となり製材価格を押し上げるコストがリスクとなっています。

地域木材資源を有効活用することにより、林業を営む人や木材を加工する人たちの雇用への反映、木質燃料ボイラーを導入する木質バイオマスエネルギー利用事業の推進、及び地元産木材を使用した場合の芦別市持家取得奨励補助金加算制度を生み出すなど、官民一体となった事業として、カラマツの付加価値が高められたことにより、リスクが少なくなる一歩となっております。

芦別育ちの「木の家」が快適な市民生活を支えるよう、建築士会芦別分会においても、事業への関わりを深めて、お手伝いの一翼を担いたいと考えています。

紋別支部 災害からの復興

支部長
高野 昭一



紋別市は、過去60年間に震度3を超える地震がないことから、平成23年3月11日に起きた東日本大震災の映像は、想像を超えたものでありました。

その6月に紋別支部から私と稲葉事務局の二人で、茨城県神栖市からの要請を受け、応急危険度判定調査ではなく、固定資産税減免のための家屋被災調査を2週間行ってきました。埋立地が多いことから液状化による建物や電柱が傾いたもの、排水桝の露出、道路の凸凹など、現実の風景からほど遠いものでありました。床だけ平らにして傾いた住宅で生活する人、傾斜のまま生活していて病気になった人など、建築士を必要としている現状も又、そこにありました。

被災の中心地であった岩手、宮城、福島各県以外にも、神栖市隣の潮来市、鹿島市、千葉県浦安市など多くの市町村でも、液状化による大規模な災害が発生しましたが、現在は、産業基盤関係の復興は進んでいるものの、住宅などの生活基盤関係の復興が、建築士の不足などから事前の調査が進まず、そのため少し遅れているとのことです。

阪神淡路大震災の短期間での復興に学び、今後の建築士の奮闘に期待したい。



液状化による傾斜住宅（神栖市）

遠軽支部

「地域とのかかわり」

支部長
高橋 利己



遠軽町には、キリスト教の男子児童福祉施設「北海道家庭学校」がありまして開設してから100年が経とうとしております。

このたび、その施設でクリスマス礼拝と晩餐会に出席してまいりました。

地元においてもなかなか機会がなく思っていたのですが、今回は仕事上のつながりがありまして、初めての参加でした。

以前に古建築の調査を行った礼拝堂での開催であります。

100年も経とうという建物でして多少の改修は、行われているみたいですが、少々寒かったです。

夕方からは、生徒たちと関係者150名ほどで晩餐会が催されました。普段のクリスマスイブとは違う有意義なひと時を過ごさせてもらい感謝です。

2014年には、100周年記念事業を行うに伴い、それまでに施設等の整備を行いたいとの事なので、会員ともども、できるだけ協力を行い、地元との関係を深めて行けたらと思っております。



CPD認定プログラム（1月認定）

- ◆高齢者等住宅改善実務者研修会
《日程及び会場》 2月16日(土)
13:00~17:00
旭川市障害者福祉センター
おびった(旭川市)
《単位数》 4単位
《問合せ先》 旭川市都市建築部
TEL 0166-25-8597
- ◆高齢者等住宅改善講演会
《日程及び会場》 2月16日(土)
10:00~12:00
旭川市障害者福祉センター
おびった(旭川市)
《単位数》 2単位
《問合せ先》 旭川市都市建築部
TEL 0166-25-8597
- ◆第56回北海道開発技術研究発表会
《日程及び会場》 2月19日(火)
13:00~14:30
北海道開発局研修センター
(札幌市)
《単位数》 2単位
《問合せ先》 北海道開発局
TEL 011-709-2311(内5782)
- ◆建設工事に伴う労働災害・地下埋設物事故防止講習会
《日程及び会場》 2月14日(木)
13:30~17:00
北海道建設会館(札幌市)
《単位数》 3単位
《問合せ先》 ㈱日本建設業連合会北海道支部
TEL 011-261-6245
- ◆第23回旭川建築作品発表会
《日程及び会場》 2月14日(木)
18:00~20:00
旭川市市民活動交流センター
CoCoDe ホール棟(旭川市)
《単位数》 2単位
《問合せ先》 旭川市都市建築部
TEL 0166-25-8597
- ◆檜山住宅づくりセミナー
～地場材を活用した檜山住宅の検討～
《日程及び会場》 2月8日(金)
10:00~12:00
今金町民センター(今金町)
《単位数》 2単位
《問合せ先》 北海道檜山振興局
TEL 0139-52-6632
- ◆低炭素建築物(住宅)の認定制度解説セミナー
《日程及び会場》 3月8日(金)
13:30~15:30
大通バスセンタービル1号館
4階大会議室(札幌市)
《単位数》 2単位
《問合せ先》 ㈱札幌工業検査
TEL 011-887-6585

図書案内

- 2011
実務に役立つ寒地住宅性能向上
リフォームのポイント
.....
◎第54回寒地建築技術講習会テキスト
◎A4判・68頁 ◎定価:2,500円
◎発行日:2011年刊
◎発行:㈱北海道建築士会
- 2010
実務に役立つ寒地住宅の環境整備の
ポイントと解説
.....
◎第53回寒地建築技術講習会テキスト
◎A4判・68頁 ◎定価:2,500円
◎発行日:2010年刊
◎発行:㈱北海道建築士会
- 2009
実務に役立つ寒地住宅設計・施工監理の
ポイント
.....
◎第52回寒地建築技術講習会テキスト
◎A4判・81頁 ◎定価:2,500円
◎発行日:2009年刊
◎発行:㈱北海道建築士会
- 2008
実務に役立つ建築材料の基礎知識
仕上編
.....
◎第51回寒地建築技術講習会テキスト
◎A4判・67頁 ◎定価:2,500円
◎発行日:2008年刊
◎発行:㈱北海道建築士会
- 民間(旧四会)連合協定
工事請負契約約款(平成23年5月改正)
.....
◎A4判・14頁 ◎定価:700円
◎発行:民間(旧四会)連合協定
工事請負契約約款委員会
- 建築設計・監理等 業務委託契約書類
.....
◎A4判 ◎定価:1,200円/会員価格:900円
◎発行:四会連合協定建築設計・監理
業務委託契約約款改正委員会
- 改正建築士法による
重要事項説明のポイント
編集=重要事項説明内容等検討会
.....
◎A4判・80頁 ◎定価:1,300円
◎発行:㈱日本建築士事務所協会連合会
平成21年10月25日改訂版

編集後記

今年も寒くて、とても雪の多い北海道ですが、会員の皆様は北海道を楽しんで居られますでしょうか。多すぎると困り者の雪ですが、北海道はやっぱり雪が降ってからでないと、その次の春が来ませんよね。さて、今月は24年度の「高校生建築デザインコンクール」の入選作品発表を掲載させて頂きました。芽吹く若い力から春を感じて見ませんか。

情報委員会 天城 秀典

情報委員会委員長/岡田 隆
副委員長/三浦 浩・天城 秀典・神田 光英
委員/森田ゆう子・岡田 光弘・山下 聡
用田 史門・高松 徹・道塚 勉

北海道建築士 No.186号

印刷 平成25年1月/発行 平成25年2月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011) 251-6076番
URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011) 811-7151番